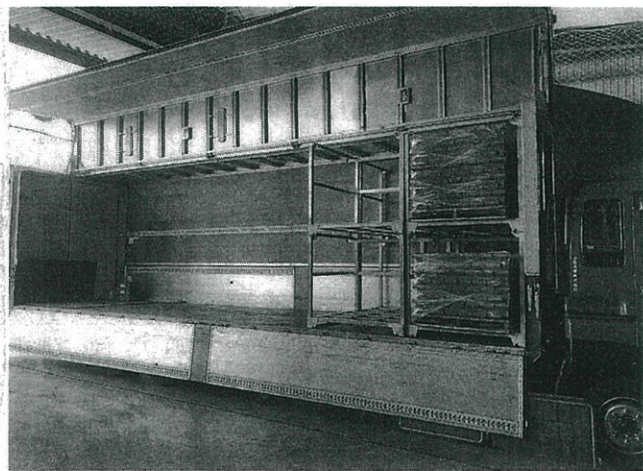


運送中の荷崩れ防止

積載効率↑ 荷役時間↓



新川製作所 ■ 積載可能なラック発売

新川製作所(新川浩社長、ティンクラック「トララック」は6月から、トラックに積み込める正ネス

そのまま倉庫で保管できるため、荷役時間の短縮にも貢献。「2024年問題」に対応するためのツールとしても提案していく。

一般的にネスティンクラックは、トラックに積み込む用途を想定しておらず、並列にすると隙間が生まれ、運送中に揺れてしまう。更に、2列積むと荷台からはみ出したり、荷台側面を傷付けたりする。トラックに合わせて特注品をつくることは可能だが、コスト負担と納期の長さ、汎用性の低さが課題となっていた。トララックは、通常のラックでは無駄な部分として

隙間をなくして安定化させたトララック

独自の工夫を施し、運送中の横揺れで荷崩れが起らないようにした。荷台の有効活用で積載効率が向上することも、ラックごと荷卸しして

付いていなかった裏面のパイプを伸ばして面板を付け、隙間をなくして安定化することに成功。独自の補強点として意匠登録を出願中だ。更に、付属している磁石付きの鎖を巻くことで、工具なしで上下のラックを固定可能。荷崩れを防止するサイドバーが付いているながら、ネスティング(重ねて収納)ができる点も強みだという。

また、サイズを荷台の大きさに合わせた。外寸が間口1350mm、奥行1130mm、高さ1190mm、30mm、内寸はそれぞれ1250mm、1080mm、1000mm。T11型パレットを収納できる上、ほぼ全ての種類のトララックに使用できる。

10トトラックは2列2段で24個、4トトラックには2列で16個積載可能。最大荷重は1トで、倉庫などでは4段まで積める。

新川社長は「トララックに積むのに適したラックはないか」という声があり、専用の商品の開発を進めた。亜鉛メッキ加工が得意な当社だからこそ実現できたと考えている。ラックごとき持ち運ぶという方法を普及させ、物流業界の労働時間削減に貢献していきたい」と話している。(根来冬太)